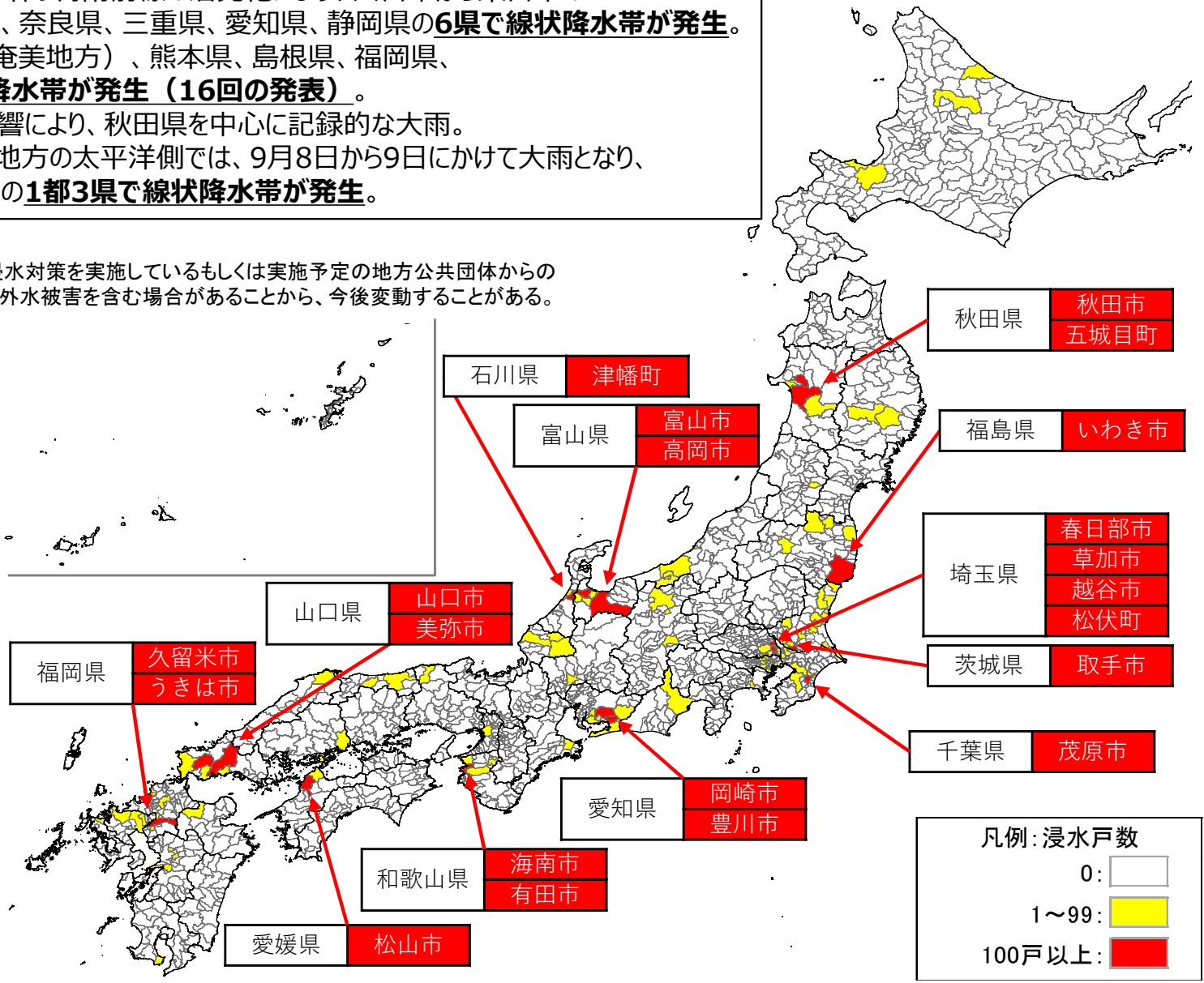
内水氾濫による浸水被害の発生状況（令和５年６～９月の大雨）

○内水氾濫による浸水被害が、**35都道府県163市区町村**で発生※1。
○内水被害のうち浸水戸数は全国で**約26,000戸**※2 。
(主な降雨状況)
○６月1日から３日にかけて、台風第２号及びそれに伴う梅雨前線の活発化により、西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県の**6県で線状降水帯が発生**。
○７月１日から13日にかけて山口県、鹿児島県（奄美地方）、熊本県、島根県、福岡県、佐賀県、大分県、石川県、富山県の**9県で線状降水帯が発生（16回の発表）**。
○７月14日から16日にかけて活発な梅雨前線の影響により、秋田県を中心に記録的な大雨。
○台風第13号の影響により、関東甲信地方や東北地方の太平洋側では、9月8日から9日にかけて大雨となり、東京都（伊豆諸島）、千葉県、茨城県、福島県の**1都3県で線状降水帯が発生**。

※1 浸水被害には道路冠水の被害も含む。
※2 浸水戸数は、公共下水道、流域下水道、都市下水路による浸水対策を実施しているもしくは実施予定の地方公共団体からの報告による（下水道区域内における内水被害に限る）。なお、外水被害を含む場合があることから、今後変動することがある。